

第39回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2017年4月27日(木) **17:30**より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)302号室

演題

合気道史研究から近代柔術史研究への展望

工藤 龍太先生
(早稲田大学 助手)

現代武道の1種目である合気道は、柔道や剣道のように競技を行わず、形を稽古の中心とし、いくつかの流派に分かれながらも世界中に広く普及している。拙著『近代武道・合気道の形成—「合気」の技術と思想』(2015)では、「合気」概念の変遷を追いながら、合気道がどのように分派していったのか、日本武道における独自性は何なのかを考察した。そしてその後の研究で、合気道史の研究は、近代日本における柔術史という文脈で位置付けることが可能であるという着想を得た。本発表ではこれまでの近代以降の柔術史の先行研究を抑えながら、合気道やその源流となった大東流柔術の研究が、近代の武道史研究にどのような視座をもたらすかを報告する。柔道のように、学校体育・競技スポーツによる組織的な普及の道を選ばなかった柔術は、総合的かつ実戦的な技術を形稽古によって保存しながら、人伝に普及していったと考えられる。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・小木曾航平
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: kogisok@aoni.waseda.jp